

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	内科学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時間	前期 月曜日 2限	教室名	702室
担当教員	北野 富美雄				
実務経験とその関連資格	八尾徳洲会総合病院に25年間、薬剤師として勤務。 ①臨床薬剤師(内科病棟)に従事。院内臨床カンファレンスでの入院患者服薬状況、副作用の報告 薬品情報提供 ②他職種(医師 看護師 言語聴覚士 作業療法士 理学療法士)に対しての薬物療法、情報提供(副作用) ③院内処方箋による外来調剤(外来患者)、入院調剤(入院患者) ④服薬指導(入院・外来患者に対して薬の用法、用量の説明、副作用チェック、医師への報告など) ⑤薬品の品質管理(麻薬、劇薬、毒薬 冷暗所保存薬 普通薬について厳格な管理) ⑥新薬臨床治験・研究 医薬品臨床治験実施基準に従い、新薬の効果、副作用の調査、審査 ⑦医薬品の再評価・審査 認可された薬品において医薬品医療機器等法に基づく再審査、再評価の実施 ⑧地域住民に対する健康講座に参加 週2回 疾病にならないための指導、講演の実施				
《授業科目における学習内容》					
患者の高齢化が進んでいる今日、内科疾患を有する率が増加している。内科は医学の基本である。内科を履修することで、内科疾患の ①成因 ②診断 ③症状 ④治療 を理解することができる。将来、言語聴覚士の日常業務において、チーム医療の一員として参画できる。受け持ち患者の全身状態を把握できる。内科学は言語聴覚士国家試験の科目であり、国家資格取得に寄与できる。					
《成績評価の方法と基準》					
中間テストを1回、本試験を1回実施する。中間テストは講義8回目に実施(試験範囲 1～7回まで 時間30分あと解説、総括)。本試験(1～15回全範囲 時間60分)は別日に行う。成績評価 中間テスト1回 50点×0.6=30点 本試験100点×0.7=70点とする。中間テストと本試験の合計点数(30点+70点=100点)で成績を評価する。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
内科学 8版 編集 北村 諭 中外医学社 2024年 言語聴覚士国家試験問題(特に過去10年間の問題 国家試験対策)					
《授業外における学習方法》					
講義の前後につながりがあるので、前回の練習問題を確認してほしい。次回にすることを予習してほしい。					
《履修に当たっての留意点》					
わからないところがあれば、遠慮なく質問してほしい					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	消化器系Ⅰ 逆流性食道炎、胃十二指腸潰瘍、胃癌など 解剖、生理、検査、症状、治療が理解できる	教科書 配布プリント	逆流性食道炎、胃十二指腸潰瘍、胃癌の予習	
	各コマにおける授業予定	食道、胃の構造と機能 消化性出血 食道系疾患(逆流性食道炎 食道裂孔ヘルニア 食道癌) 胃十二指腸疾患(急性胃炎 慢性胃炎 胃十二指腸潰瘍 胃癌)の検査 治療について学ぶ			
第2回	授業を通じての到達目標	消化器系Ⅱ 腸の構造機能 急性腸炎 虫垂炎 腸閉塞 クロウン病 潰瘍性大腸炎 大腸癌の治療が理解できる	教科書 配布プリント	逆流性食道炎、胃十二指腸潰瘍、胃癌の復習と急性腸炎 虫垂炎 腸閉塞 クロウン病 潰瘍性大腸炎 大腸癌の予習	
	各コマにおける授業予定	小腸、大腸の構造と機能 急性腸炎 虫垂炎 腸閉塞 クロウン病 潰瘍性大腸炎 過敏性腸症候群 大腸ポリープ 大腸癌の検査 治療について学ぶ			
第3回	授業を通じての到達目標	肝胆膵系 急性肝炎、肝硬変、胆嚢炎、急性膵炎 肝癌 解剖、生理、検査、症状、治療が理解できる	教科書 配布プリント	急性腸炎 虫垂炎 腸閉塞 クロウン病 潰瘍性大腸炎 大腸癌の復習と急性肝炎、肝硬変、胆嚢炎、急性膵炎 肝癌の予習	
	各コマにおける授業予定	肝臓、膵臓 胆嚢の構造と機能 肝臓疾患(急性肝炎(ウイルス、薬剤、アルコール性) 慢性肝炎 肝硬変 肝癌) 胆嚢疾患 膵臓疾患(急性膵炎 慢性膵炎)の検査と治療を学ぶ			
第4回	授業を通じての到達目標	内分泌系疾患Ⅰ 末端肥大症、尿崩症、甲状腺疾患 解剖、生理、検査、症状、治療が理解できる	教科書 配布プリント	急性肝炎、肝硬変、胆嚢炎、急性膵炎 肝癌の復習と 末端肥大症、尿崩症、甲状腺疾患の予習	
	各コマにおける授業予定	下垂体前葉 後葉 甲状腺の構造、機能 末端肥大症 下垂体機能低下症 尿崩症 甲状腺機能亢進症(バセドウ病) 甲状腺機能低下症(橋本病)の検査 治療について学ぶ			
第5回	授業を通じての到達目標	内分泌系疾患Ⅱ 褐色細胞腫、クッシング症候群、副腎皮質 解剖、生理、検査、症状、治療が理解できる	教科書 配布プリント	末端肥大症、尿崩症、甲状腺疾患の復習と褐色細胞腫、クッシング症候群の予習	
	各コマにおける授業予定	副腎(皮質 髄質) 性腺の構造、機能 副腎皮質疾患(クッシング症候群 アジソン病 原発性アルドステロン症) 副腎髄質疾患(褐色細胞腫)の検査 治療について学ぶ			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	代謝性疾患Ⅰ 脂質異常症 骨粗鬆症 肥満症 やせ 解剖、生理、検査、症状、治療が理解できる	教科書 配布プリント	褐色細胞腫、クッシング症候群の復習と 脂質異常症 骨粗鬆症 肥満症 やせの予習
	各コマにおける授業予定	脂質、たんぱく質 糖質の代謝 肥満症 脂質異常症 HDL LDLコレステロールの代謝 カルシウムの代謝の作用 骨粗鬆症の検査 治療について学ぶ		
第7回	授業を通じての到達目標	代謝性疾患Ⅱ 糖尿病Ⅰ型Ⅱ型 高尿酸血症(痛風) 解剖、生理、検査、症状、治療が理解できる	教科書 配布プリント	脂質異常症 骨粗しょう症 肥満症 やせの復習と糖尿病Ⅰ型Ⅱ型 高尿酸血症(痛風)の予習
	各コマにおける授業予定	膵臓 ラングルハンス島 グルカゴン インスリン 糖の代謝 プリン体の代謝 高血糖症状 糖尿病 糖尿病合併症 高尿酸血症 検査 治療について学ぶ		
第8回	授業を通じての到達目標	1～7回までの中間テスト実施と解説	教科書 配布プリント	1～7回までの復習 中間テストの準備
	各コマにおける授業予定	前半の試験と回答 前半の総括		
第9回	授業を通じての到達目標	循環器疾患Ⅰ 狭心症 心筋梗塞 動脈硬化 解剖、生理、検査、症状、治療が理解できる	教科書 配布プリント	狭心症 心筋梗塞 動脈硬化の予習
	各コマにおける授業予定	循環器の構造 機能 動脈硬化について。冠動脈の構造と機能 虚血性冠動脈疾患 狭心症 心筋梗塞の検査 治療について学ぶ		
第10回	授業を通じての到達目標	循環器疾患Ⅱ 心不全(急性 うっ血性) 不整脈 高血圧 解剖、生理、検査、症状、治療が理解できる	教科書 配布プリント	狭心症 心筋梗塞 動脈硬化の復習と 心不全(急性 うっ血性) 不整脈 高血圧の予習
	各コマにおける授業予定	心臓の機能、うっ血性心不全、刺激伝導系 不整脈(上室性、心室性)、血圧の調節 高血圧(二次性、本態性)検査 治療について学ぶ		
第11回	授業を通じての到達目標	呼吸器疾患Ⅰ 上気道炎 急性扁桃炎 気管支炎 肺炎(肺炎球菌 マイコプラズマ コロナ クラミジア) 症状、検査 治療が理解できる	教科書 配布プリント	心不全(急性 うっ血性) 不整脈 高血圧の復習と気管支炎 肺炎 上気道炎の予習
	各コマにおける授業予定	気管支、肺の機能と構造。ウイルス、細菌性感染 上気道炎、気管支炎、肺炎(肺炎球菌 マイコプラズマ コロナ クラミジア レジオネラ) 検査、治療について学ぶ		
第12回	授業を通じての到達目標	呼吸器疾患Ⅱ 閉塞性換気障害(気管支喘息 COPD) 拘束性換気障害(間質性肺炎 塵肺)解剖、生理、検査、症状、治療が理解できる	教科書 配布プリント	気管支炎 肺炎 上気道炎の復習と拘束性、閉塞性換気障害の予習
	各コマにおける授業予定	気管支、肺の機能と構造。閉塞性換気障害、拘束性換気障害 気管支喘息、肺炎、慢性閉塞性肺疾患(COPD)の検査、治療について学ぶ		
第13回	授業を通じての到達目標	腎泌尿器系疾患 腎炎 腎不全(急性 慢性) 泌尿器疾患 解剖、生理、検査、症状、治療が理解できる	教科書 配布プリント	拘束性、閉塞性換気障害の復習と腎泌尿器系疾患 腎炎 腎不全(急性 慢性) 泌尿器疾患の予習
	各コマにおける授業予定	腎臓、泌尿器の機能と構造 急性腎炎、慢性腎炎、糸球体腎炎、腎不全、尿細管の疾患 電解質異常、泌尿器系疾患、尿路感染症について学ぶ		
第14回	授業を通じての到達目標	血液疾患 貧血 白血病 出血性疾患 悪性リンパ腫 伝染性単核球症 多発性骨髄腫の検査 治療が理解できる	教科書 配布プリント	腎泌尿器疾患の復習と血液疾患の予習
	各コマにおける授業予定	血液疾患 貧血(鉄欠乏性 巨赤芽球性 再生不良性 溶血性) 白血病 出血性疾患 悪性リンパ腫 伝染性単核球症 多発性骨髄腫の検査 治療について学ぶ		
第15回	授業を通じての到達目標	臨床に必要な薬剤の薬理作用、副作用 が理解できる	教科書 配布プリント	血液疾患の復習と臨床に必要な薬剤の予習
	各コマにおける授業予定	①聴覚 燕下に障害をおこす薬。 ②薬物依存をおこす薬。 ③抗凝固剤 抗血小板剤 ④毒薬 麻薬 向精神薬 副作用 注意すべき薬剤について学ぶ		